

【様式】

令和8年度 学校マネジメントシート

学校名( 伊勢工業高等学校 )

1 めざす姿

(1)めざす学校の姿	地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿) 【グラデュエーション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的な生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒(ひとづくり)</li> <li>○ 産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒(ものづくり)</li> <li>○ 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒</li> </ul>
	ありたい教職員の姿	○ 目指す学校像の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;生徒&gt; 卒業後の進路希望は、就職が約8割、進学が約2割である。また、資格の取得や活発な部活動に期待している。</p> <p>&lt;保護者&gt; 保護者の多くは、子どもの地元企業への就職を希望している。</p> <p>&lt;地域&gt; 元気で素直な生徒の育成に期待をしており、特に地元企業からの期待が大きい。</p>	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;家庭&gt; 日常の子どもの様子を知らせてほしい。</p> <p>&lt;中学校&gt; 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。</p>	<p>&lt;家庭&gt; 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。</p> <p>&lt;中学校&gt; 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。</p> <p>&lt;地域社会&gt; 本校の教育活動を理解し、積極的に協力して欲しい。</p>
(3)前年度の学校関係者評価など	<p>「すぐる」による遅刻・欠席連絡を分析し、生活習慣の改善や遅刻・欠席の減少に役立ててほしい。</p> <p>高校生工務店の取組は素晴らしいものである。もっと大々的にPRをしてほしい。</p> <p>様々な教育活動において、記録を残すことが大切である。キックオフからストーリー性のあるプロモーションを作成することで改善につながる。特に動画による記録を学校だけでなく周囲の人を巻き込んで残し作成するとよい。</p>	

(4)現状と課題	教育活動	<p>&lt;現状&gt;            在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。            「ものづくり」企業で活躍する人材に必要な「工業の専門的な知識・技術」だけでなく世界範囲でのコミュニケーション能力を育成する場が求められる。</p> <p>&lt;課題&gt;            企業が求める人材は、現在より一段高いところ(異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等)にあり、そのニーズに応えていく必要がある。また、生徒の安全と学びの継続を両立させるため、ICT教育の推進をすすめるとともに、変化の激しい社会や技術の急速な進歩に対応するために「課題解決力」や「学びに向かう力の育成」が必要である。</p>
	学校運営等	<p>&lt;現状&gt;            本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。            地域の小中学生に工業高校の教育活動や卒業後の社会貢献が理解されていない。</p> <p>&lt;課題&gt;            活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えるための土日のイベント参加も多くなり、教職員も生徒たちも疲れてきている。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や生徒たちの過重な負担を減らしていく必要がある。</p>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ものづくり」が好きで、学校での学習や地域での体験を基に自身が成長できる、生徒から望まれる学校づくりを行う。その「ものづくり」とおして生徒が主体的に新しい資質・能力を学ぶ成長できる場を設ける。</li> <li>・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。</li> <li>・基本的な生活習慣と身だしなみや挨拶などの社会常識を身につけた、明るく素直で、自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感を有する生徒を育成する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。</li> <li>・第1希望の進路の獲得を目指し、基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。</li> <li>・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。</li> <li>・令和6年度に採択を受けた高等学校 DX 加速化推進事業(DXハイスクール)の取組で、「ものづくり」を基にした授業や取組で、DX人材の育成をすすめる。</li> </ul>

### 4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ものづくり」とおして自己実現したいと考えている生徒</li> <li>○ 伊勢志摩を中心とした地域で活躍し、地域のリーダーになりたいと考える生徒</li> <li>○ 自他の命を尊重し、学業、部活動や校外活動に取り組みたい生徒</li> </ul>
---------------------------------	--

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p><b>教科指導</b></p>	<p>(1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図り、実用に即した資格取得に重点をおいた教育実践に努めます。</p> <p>(2)実習・課題研究や製図の取組の中で、技術技能の向上並びに「ものづくり」を通じた地域連携による課題解決力や表現能力に秀でた生徒の育成を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)ものづくり大会への参加・ものづくり東海大会への出場</p> <p>(イ)技能検定3級程度の技能練習、補習授業等の実施</p> <p>(ウ)建築設計競技会への参加</p> <p>(エ)高校生工務店等による各種地域機関との連携</p> <p>【成果指標】</p> <p>・資格取得【別表】参照</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	
<p><b>生徒指導</b></p>	<p>(1)挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。</p> <p>(2)日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的にモラル教育を実践します。</p> <p>(3)工業高校生としての連帯感を高め、いじめのない良好な人間関係の構築に努めます。</p> <p>(4)保護者との意思疎通を積極的に図り、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)全教員による登下校挨拶指導と校内巡視(毎日)</p> <p>(イ)5分前精神の徹底(時間を守る・遅刻しない)</p> <p>(ウ)頭髪服装指導(通年)・身だしなみ講座(4月)の実施</p> <p>(エ)新入生研修で「ソーシャルメディアの利用について」の講話を実施(4月)</p> <p>(オ)部活動をとおして人間関係の育成</p>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	

	<p>(カ)生徒個別面談(年間2回)および学校生活等に関するアンケート(各学期)の実施</p> <p>(キ)保護者会やPTA諸会合での説明</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒アンケートで自ら進んで挨拶できると答えた生徒 100%</li> <li>・ 遅刻の回数 昨年度比25%減</li> <li>・ 欠席日数の減少</li> <li>・ いじめの解消率 100%</li> <li>・ 保護者アンケートで、学校の様子を理解している旨の回答 80%以上</li> </ul>		
<p><b>進路指導</b></p>	<p>(1)キャリア教育の推進により、保護者との連携を保ち生徒の主体的意志に基づいた進路希望の実現を目指します。</p> <p>(2)各学科や担任団など関係分掌との連携を円滑にし、キャリア教育を効果的に進めます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア)インターンシップを2年生の夏季休業中に実施</p> <p>(イ)在卒懇談会を2年生の3学期に実施</p> <p>(ウ)生徒への有益な情報提供のため、企業訪問を50社以上実施</p> <p>(エ)スタディサプリの活用により、学習習慣を持続させ基礎学力の定着を目指す。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就職1次試験での合格率 95%以上</li> <li>・ 卒業前の意識調査における進路に満足している旨の回答 98%以上</li> </ul>	<p>(年度末および適宜記載)</p>	<p>◎</p>
<p>改善課題</p>			
<p>(年度末に記載)</p>			

【別表】

標記:目標/受験者数/結果

資格取得合格者数の目標値	資格、検定	機械科	電気科	建築科
	危険物丙種	60人/ 人/ 人		
	危険物乙種4類	40人/ 人/ 人		
	ガス溶接技能講習	78人/ 人/ 人		
	基礎製図検定	50人/ 人/ 人		
	機械製図検定	50人/ 人/ 人		
	技能検定(機械保全)3級	5人/ 人/ 人		
	技能検定(機械検査)3級	5人/ 人/ 人		
	小規模ボイラー講習	30人/ 人/ 人		
	電気工事士2種		40人/ 人/ 人	
	電気工事士1種		10人/ 人/ 人	
	電気主任技術者3種		1人/ 人/ 人	
	第二級陸上特殊無線技士		5人/ 人/ 人	
	第二級海上特殊無線技士		5人/ 人/ 人	
	技能検定(シーケンス制御)3級		5人/ 人/ 人	
	技能検定(電子機器組立て)3級		5人/ 人/ 人	
	福祉住環境デザイン3級			5人/ 人/ 人
	2級建築施工管理技術検定試験			10人/ 人/ 人
	カラーコーディネーター(スタンダード)			10人/ 人/ 人
	建築CAD検定4級			35人/ 人/ 人
建築CAD検定3級			35人/ 人/ 人	
建設業経理事務士4級			20人/ 人/ 人	
技能検定(建築大工)3級			5人/ 人/ 人	
レタリング検定3、4級			35人/ 人/ 人	

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p>(1) 教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努めます。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定時退校日を月1日実施</li> <li>・ 部活動休養日を週1回設定</li> <li>・ 放課後の会議の時間 60 分以内</li> </ul>	(年度末および適宜記載)	

	<p>【成果指標】(( )内は令和6年度の実績 )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上限時間月45時間超の延べ人数 0 人 (54人)</li> <li>・ 上限時間年 360 時間超の延べ人数 0 人 (11人)</li> <li>・ 時間外労働を月 2 時間削減 (19.1 時間/月)</li> <li>・ 定時退校できなかった教職員数延べ 0人以内 (2人)</li> <li>・ 予定通り休養日を設定した部活動の割合 100% (99.6%)</li> <li>・ 60 分以内に終了した放課後の会議の割合 100% (93.6%)</li> <li>・ 休暇取得を年 0.5 日増加 (23.0日/年)</li> </ul> <p>(2) 体罰や不適切な指導のない状態を守り続け、生徒がより安心、安全に過ごせる学校を目指します。</p> <p>(3)DX ハイスクール事業を活用した授業研究等を通じて、各専門教科の指導力向上を目指します。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア)コンプライアンス研修を年 2 回実施</p> <p>(イ)DX 人材を育成する新しい実習を展開</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員一人ひとりのコンプライアンス意識が向上</li> <li>・ 資格取得【別表】参照 (再掲)</li> </ul>		◎
改善課題			
(年度末に記載)			

6 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	(年度末に記載)
----------------------------	----------

7 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	(年度末に記載)
<p>学校運営についての改善策</p>	(年度末に記載)